自衛隊札幌病院 地域医療連携室便り　Ｎｏ．７１

2023年１２月

～R5.12現在　流行感染症とかぜ症状外来について～

疾　患	地　域	11/13-11/19	11/20-11/26	11/27-12/3	小　括
インフルエンザ（定点報告数）警報：10 注意：10	札幌市	41.38 ↑	59.96 ↑	52.88 ↓	ピークを過ぎたが、まだ警報レベル
	北海道	39.21 ↑	51.90 ↑	50.49 ↓	一部地域では増加傾向（室蘭、函館、旭川、苫小牧等）
	全　国	21.65 ↑	28.32 ↑	26.72 ↓	ピークを過ぎたが、まだ注意報レベル
新型コロナ（定点報告数）	札幌市	4.18 ↓	4.84 ↑	5.29 ↑	一旦わずかに減少し再度増加
	北海道	5.98 ↑	6.61 ↑	6.82 ↑	概ね横ばい　岩内は要注意
	全　国	1.95 ↓	2.32 ↑	2.75 ↑	下火であるものの、わずかに増加

定点報告とは、対象となる感染症について、すべての定点医療機関からの報告数を定点数で割った値　＊警報・注意レベル等は各感染症によって定められていない場合もある

札幌市内で特に警戒中

インフルエンザ

・インフルエンザＡは現在２種類のタイプが流行しています。そのため、罹患して１～２か月後に再罹患する場合があります。
・インフルエンザＢも少しずつ発生してきています。
・例年より４週間程度流行開始が早まり、ピークは１．５倍程度です。

咽頭結膜熱（アデノウイルス、プール熱）

小樽、江別、千歳、岩見沢でも定点あたり報告10越え

・札幌市において、４２週（10/16-10/22）より警報レベル（3.00）を上回り、増加傾向です。（現在、例年の約７倍の報告）
・主に小児の感染症でよく聞かれますが、成人でも感染します。感染力が強く、特に、眼症状が強い場合は点眼治療が必要な場合があります。

Ａ群溶連菌感染症

岩見沢、富良野において定点あたり報告10越え

・札幌市はコロナ禍前と同様の増加傾向にあります。
・５歳の報告が最も多く、３～８歳までが約７５％を占めます。

マイコプラズマ肺炎

・日本では流行の兆しは見えていませんが、中国・韓国・インドネシア・アメリカ・デンマーク等で流行しているようです。
・既存の感染症が猛威をふるう傾向にあり、マイコプラズマについても注意が必要です。重複感染により重症化しやすいですが、抗生剤により治療可能です。
・特に発熱及び長期持続する咳にはご注意ください。

かぜ症状外来について

令和５年１２月１１日より、下記のとおり態勢を一部変更しました。

・受診申込書記入場所のパーテーションを撤去します。
・診察後、１Ｆの指定地域にて待機頂き、お薬の受け渡し及び会計を実施します。（当日会計となります）

院内における感染拡大防止にご協力をよろしくお願いいたします。

問い合わせ　：自衛隊札幌病院　地域医療連携室
０１１－５８１－３１０１　内線４２７３　（８－１７－４２７３）